

「確かな学力」を育む学習指導に関する研究

—国語科を中心とした「話すこと・聞くこと」の力を高めるための授業の工夫（2年次）—

I 研究の内容

1 児童の教科の状況把握と改善すべき課題の整理

- (1) 令和元年度 NRT 検査結果分析（全学年）と課題の明確化
- (2) Q-U 検査（全学年）K13 法による分析・アタックシートの作成・活用の充実

2 「話すこと・聞くこと」の力を高めるための授業実践

(1) 研究授業

第3学年研究授業 国語科

「しりょうから分かったことを、すじ道を立てて話そう

しりょうから分かる，小学生のこと」 萩原 拓也教諭

指導助言 山梨県総合教育センター 指導主事 小林千由紀先生

(2) 授業実践

第1学年	国語科	「ともだちに，きいてみよう」	奥山 美恵教諭
第2学年	国語科	「あったらいいな，こんなもの」	小河真由美教諭
第4学年	国語科	「ごんぎつね」	向山 紀子教諭
第5学年	国語科	「分かりやすく伝える」	金井 巖 教諭
第6学年	国語科	「今，私は，ぼくは」	岡村 理恵教諭
すみれ（知的）学級	生活単元	「教えて，あなたのこと」	筒井ひさ美教諭
つくし（情緒）学級	5年国語科	「グラフや表を用いて書こう」	矢崎さつき教諭
第4学年	算数科（プログラミング教育）	「線を引いてみよう」	野尻 政彦教諭
日本語指導		「文と文をつなぐ言葉」	中村 伸也教諭

3 「話すこと・聞くこと」の力を高めるための工夫

- (1) 「話すこと・聞くこと」の実践の蓄積（言語活動実践の記録）
- (2) 言語活動ハンドブックの活用

4 タブレットの活用

II 成果と課題

研究主題「『確かな学力』を育む学習指導に関する研究」を進めるために、今年度も国語科を中心とした「話すこと・聞くこと」の力を高める授業の工夫に取り組んできた。

全国学力・学習状況調査やNRTの結果などから、国語科、特に「話すこと・聞くこと」が全国平均に比べどの学年も低いこと、また、日常の学校生活の中でも、先生や友だちの話を理解する力が十分に身につけていない児童や、自分の考えや気持ちをうまく表現できない児童が見られることから、あらためて言語活動に注目し、それらを取り入れた取り組みを行うこととした。

本年度は、研究授業、一人一実践を通して、「話すこと・聞くこと」の力を高めるための様々な工夫を取り入れた実践を行い、教職員でその成果を共有した。共有化を図ることで、さらなる改善を加えた実践に結びつく話し合いができた。また、言語活動実践記録の中にも、ペア活動、グループ活動の際、友達の意見に耳を傾け、理解しようする姿が見られるようになってきたと記録されるようになった。低学年においても、「話し方」「聞き方」「声のものさし」を教室に掲示して、児童が普段から意識できるようにした。さらに今年度は、26台のタブレットを導入し、「話し合い活動」の補助的なツールとして授業の中での活用を試みた。まだまだ十分な活用とはいかないが、「タブレット活用の記録」を残し、今後、それらを蓄積していくことでタブレットの活用の工夫が進めていけると考える。

課題としては、「話すこと・聞くこと」の高める手立てとして言語活動ハンドブックを取り入れることとしたが、少しずつ意識して取り入れはじめたものの、授業の中で効果的に取り入れていくことは難しかったとの反省が多くみられた。しかし、言語活動実践記録ではハンドブックの実践例をもとに、その視点に基づいた多くの言語活動を取り入れて、授業を進めることができた。タブレットについても、「話すこと・聞くこと」の力を高めるためのツールとして有効に活用できるよう、来年度はさらに実践を積み重ねていきたい。

III 成果物

- 1 研究授業・一人一実践授業の指導案、使用した教具、ワークシート
- 2 言語活動実践記録
- 3 タブレット活用の記録

(研究主任 向山 紀子)